平成十九年度　瑞浪高校演劇部　公演脚本

「家政婦は見られた！」県大会用改訂版（第三稿）

前川泰信　作

キャスト

A　家政婦１
B　家政婦２
C　家政婦３
D　家政婦３の子ども　幼稚園年長
E　家政婦紹介所の奥さん　五十代
F　家政婦１の弟　高校生
G・H・I・J　見学の女子高生

参考・引用

映画「サマータイムマシンブルース」（本広克行）
「バック・トゥ・ザ・フューチャー」（ロバート・ゼメキス）
戯曲「三人姉妹」（チェーホフ）　「萩家の三姉妹」（永井愛）　「ばあちゃんズ」（纐纈敦子）
テレビ番組「仮面ライダー電王」「機動戦士ガンダム」
漫画「きょうの猫村さん」

緞帳が上がる前に、下手花道からB登場。舞台中央まで来て、

B　（**腕時計らしきものを見て**）あと六十分。やっぱやろ。

上手花道へ退場。

軽やかなBGM。幕が上がると、部屋の中。テーブルが中央やや上手にあり、椅子が六脚置かれている。下手に小さめの机と椅子がある。壁にはスケジュールの書けるホワイトボードと、着替え用のロッカー。その脇には段ボールが積み上げてある。テーブルの上には電話など。壁にはおばさんの好みそうな歌手のポスター（氷川きよしとか）が貼ってある。テーブルでは、家政婦Cが電話で謝っている。机では、奥さんがノートパソコンを一心に打っている。

C　ふう。（**電話を切る**）
A　何？また鈴木さん。
C　そう。
A　いろいろやらかしてくれるねー。えっと、突然雇ってくれって言って来てからどのくらい経つ？
C　もうすぐ一ヶ月ってとこ？
A　えー。とてもそうは思えないトラブルの数々。
C　まあ、それでもなんか憎めないけどね。
A　えー、そーかー。人に厳しいなっちゃんにしては珍しいご意見。

C　なんだろな、妙な親近感ある。
A　へえ。で、今度は何？
C　よりによって、北川さんのところへ行くことになったのよー。
A　えー、大丈夫なの？
C　わけないでしょう。も、初日からもめてもめて。
A　うわ。何やったの？
C　ただでさえ、好奇心旺盛でしょ。旦那の書斎掃除した時に。
A　あ、見てはならないものを見た？
C　そう。
A　まさに、「家政婦は見た」か。で？　何何？
C　机の引き出しにたまたま鍵がかかってなくて！
A　（**身を乗り出す**）うんうん！
E　（**大きく伸びをする**）うーーーん！

AとC、奥さんを振り向く。

C　奥さん、朝からずっと何やってんの？
E　税金の申告書。
A　げーっ、いくら取られんの？
E　もう取られたの。取られた分、少しでも戻ってくるように、書類作ってるんじゃない。

A　お疲れさま。あたしたちじゃ、絶対にできないよね。
C　たしかに。
E　何言ってんだい。あたしゃ仮にここの代表やってるだけなんだからね。
C　もう、仮にとか言わずに。ずうっと、ね。
E　いい加減にしとくれ。こんなこといつまでもやってられるかい！
A　でも、家政婦紹介所の運営なんて、奥さんじゃないとさあ。
E　だめだめ。約束は約束だよ。ただでさえ、いつの間にかこんな事務仕事までやらされてんだから。
　会社の目処が立ったらさっさと辞めさせてもらうよ。
A　そんなこと言わないでさあ。

上手からF登場。男子高校生。

F　こんにちは。
A　あ、さとし。え？　もうそんな時間？
C　こんにちは。
E　いらっしゃい。
F　こんにちは。ちょっと姉貴忘れてた？
A　いや、そうでもないけど、もう来るの？
F　頼むよ、ドアの外で待たせてるんだから。
C　え、何？

A　ほら、例の職場見学。
C　ちょっと待って、今日だっけ？
A　ごめん、言い忘れてた？
E　高校生がなんとか学習で見に来るってやつ？
A　はい。
C　ちょっと化粧もしてないのに。
E　まあ、別にいいでしょ、子供相手に。さとしくん、入ってもらって。
F　ありがとうございます。（**上手に少し引っ込んで**）入っていいって。

見学の女子高生、G・H・I・J、ぞろぞろと入ってくる。

全員　こんにちはー。
A・C・E　（口々に）こんにちは。
F　これ、僕の姉貴。
全員　よろしくお願いします。
A　大林君代です。よろしく。じゃあ、そのへんに座って。

それぞれに座る。

A　えっと、どんな話すればいいのかな。

G　ええと。（**メモを見て**）どうやって、この家政婦紹介所を作られたのか、とか、仕事の内容とか、苦労すること、やりがいのあること、なんかです。
C　今時の高校生、大変だねえ。あたしらこんなのあったっけ。
F　わりと最近らしいよ、総合学習始まったの。
C　あー、前にそんなのニュースで見たことある。
A　じゃ、説明してくね。この水橋さんはあたしの幼なじみなわけね。二人とも、勉強がだいっきらいだったけど、家事みたいなことは得意だったの。
G　じゃ、家政婦さんが天職だと。
C　なーんかそれさびしい。
A　何言ってんの。高校生の前だよ。胸張んなきゃ。
C　年の差、見せつけられてる気がするなー。
A　ちょっと黙ってて。あ、気にしないで。若い子見るとちょっとね。ま、天職といえば天職なんだけど、ベテランのおばさん家政婦と一緒に気を遣って働くのって気が重いじゃない？
E　そもそもそれがわがままなんだよ。
A　もう、口はさまないで。で、じゃあいっそ紹介所を自分たちで作っちゃえってことになって。
G　あ、すごいですね。
C　でも、若い女性だけの会社って分かると、絶対危ない目に遭うから。
A　それで、あそこでパソコン打ってる奥さん、木野村さんを頼んで、運営をやってもらうことにしたわけ。
E　うまいこと乗せられて、えらい目に遭ってるよ。
C　またあ、根っからの世話好きのくせに。

E　んなこたない！
C　ある！　じゃなきゃ、隣りに住んでるってだけで、あたしの出産の面倒なんてみてくれないって。
E　あー、あれが失敗の始まりだったねえ。
G　出産？
F　あ、ちょっと事情があってね。
C　隠すことないよ。あたし、シングルマザーってやつ。十六で子供産んでんのよ。ちょうどあんたらの年？
A　あの時はなかなか大変だったんだけどね。
I　あははは っ。

皆がそちらを向くと、Iは床に座り込んで、化粧をしながら携帯電話をいじっている。Hはソファに寝ころんで漫画を読みふけっている。Jは入り口付近でずっと突っ立っている。

I　マジ？　ウケる。で？　りょうこ、どっちの男にすんの？
C　ちょっと、見学に来といて、その態度は何？
A　高校生が化粧って、どういうこと？　早すぎるでしょ。
I　はあ？
A　えっ？
I　そっちの人、化粧どころじゃないじゃん。出産でしょ？
A　う。
I　それにさあ、高校生だから、あたし若いから、今の内にきれいにしとくんじゃん。

C　どういうこと？
I　誰かさんみたいに年くってからじゃ、化粧したって手遅れってこと。あたしはちゃんとしあわせになるんだから。何？　その中途半端な化粧。信じらんない。
A　こっ、この！

漫画を読んでいたHがむくっと立ちあがる。以下のようなことをぶつぶつ言いながら冷蔵庫に向かう。

H　艦長！

照明変わる。A・C・E・F、びくっとしてそちらを向く。高校生もいつものことという表情でそちらを見る。ガンダムのBGM　H、サスの中に飛び出す。

H　そろそろ燃料切れです。分かった、これからサイド3まで補給に向かう。キュイーン。あ、ジオン軍の待ち伏せです。いかん！　アムロ出動だ。いきまーす！　シュイン！（**ビームサーベルを抜く**）シャアか！今は闘っている場合じゃないんだ。　させるか！　よし、ふりきった。　補給庫まであと少し。こちらガンダム、補給庫の扉を開けてください。よし分かった。グイーン。よし、なんとか間に合った。補給開始。（**飲んで**）プハー。うん、これで連邦軍も一ヶ月は戦える。

E、立ちあがって、Hの頭を小突く。

E　勝手に飲むんじゃない！
H　殴ったね！　親父にも殴られたことないのに！

H、もといたソファまで駆けていって、再び漫画を見始める。

A　あんたら、何好き勝手やってんの？
E　いい加減にしな！
G　あ、でも。
E　ん？
G　好き勝手できるのも、若い内かなって。子育てとか始めたら、がんじがらめだし。
E　あんたまで？
A　生意気言うな！　なっちゃんがどんだけ頑張ってるか。シングルマザーの苦労も知らないで！
J　知ってます。
A・C・E、Jを振り向く。
J　うち、母子家庭ですから。
C　…そう。
J　私、お母さんのことは尊敬してるし、苦労も分かってます。でも、シングルマザーとか、なんか、妙にかっこいい言い方だし、他人に「苦労してるんだぞ」って言うのもなんか違う。

C、ぐったりと座り込む。A、なっちゃん」と言いながら慰めようと近づくと、

G　あっ。
A　何？
G　バイトの時間なんで帰ります。
A　え？　仕事の内容とか聞かなくていいの？
G　あとでさとしくんに聞きます。見学に来さえすれば単位出ますから。
A　おいおい。
G　じゃ、失礼します。

四人去りかけるが、

G　あっ。

Gの合図でいきなり四人がAに並び、自分達に向けて携帯のカメラで写真を撮る。A、思わずピース。

A　何何？
G　来た証拠です。じゃ。

四人上手に去っていく。去り際の会話。

I　ねえねえ、あの人たちみたいなのをさあ、
G　なんて言ったっけ？
H　ああ、あれ。
四人　負け犬！

くすくす笑いながら、四人が去る。

A　このっ！
E　待ちな！
C　いいよ。
A　だって。
C　言わせとこ。あんなのにいちいち傷ついてちゃ生きていけないって。シングルマザーとしては。
　　あ、そう言っちゃいけないんだっけ？
A　でも。
C　年くってるのも事実だし。
A　…あたしもってこと？

Fが続いてそーっと帰ろうとするので。

A　ちょっとさとし、逃げる気？
F　悪い。
A　ちゃんと謝れ。
C　さとしくんのせいじゃないから。
E　そうだよ。
A　ううう。…じゃ、せめて白状してから行け。
F　白状？
A　…誰？　ねらいは。
F　は？
A　気があるから、ここ紹介したんでしょ。白状しなさい。
F　…携帯の子。
A　よりによってあれか！
F　も、ほんとに行くから。
A　ちょっと、まだ話は終わってないよ！

F、上手に逃げ去る。

A　まったく最近の若い子は。
C　日本語通じてんのかね。まるっきり外人じゃん。

A　というか、宇宙人？
C　あー、言えてる。
E　何言ってんだい。
C　え？
E　あたしに言わせりゃ、あんたらも変わりゃしないよ。
A　ひど。
E　何がひどい。あたしにこんな仕事押しつけて。
A　えー、なんで。世話好きなんでしょ。なっちゃんの出産、あんなに親身になってあげて。
E　しょうがないだろ、母一人子一人は他人事（ひとごと）じゃなかったんだから。
C　で、そこを見込んで、ここの代表を。
E　「つけ込んで」の間違いだろ。子ども独立させてほっとしてたから、ついＯＫしちまった。
A　そっか。ラッキーだったんだ。
E　そういや、鈴木さんってさあ、（**Cに**）あんた何か感じないかい？
A　ま、ひどいけど一応戦力だから。
E　そういうことじゃなくて。ま、いいか。あんたは短大出てんだから、こんなとこ来なくたって。
A　一応、栄養士の資格とって、病院で働いたんですけどね。
C　意地悪なおばさんがいたんだって。
A　やっぱり、仕事って人間関係ですねー。
C　おばさんって、ずけずけ踏み込んでくるからねー。図々しい。
A　あー、年取りたくない！　女子高生にもあんなこと言われて！

E　ばか。若いもんとおばさんと、見境なしに悪口かい。
C　でも、さっきの高校生はひどすぎるでしょ。
A　うん。完璧宇宙人。
E　あれはねえ、宇宙人じゃない。未来人なんだよ。
A　えー。
E　たまたま時代の流れが速くって、同じ時間に生きてるだけで、ありゃずっと未来からやってきた人間。話なんか通じなくて当然よ。
C　未来人って…。そんないいもんかなあ。
A・C　ねえっ。
E　何、「未来」っていい言葉？
A　いい言葉でしょ。
C　あ。
A　ん？
C　いい言葉じゃないわ。
E　そう。あんたら口開けば年取りたくない、年取りたくないって。未来っていうのは年取って魅力がなくなってくだけみたいに聞こえるけどね。
A　それはそうかもしんない。
C　たしかにあたしには素敵な未来なんて残ってないか。子供育てて年取るだけ。
A　大人の女には「未来」なんていい言葉じゃないね。
E　情けないね、いつもいつも。二十代だろ？

間。Eはキーボードを叩き続けている。

A　あ、そういえば、さちお君帰ってくるんじゃないの？
C　もうそんな時間か。
A　ねえ、お迎え行かなくてもいいの、最近物騒だよ。
C　大丈夫大丈夫。母一人子一人生きてかなきゃいけないんだから、強く育てないと。
E　そうそう、最近はなんでも過保護すぎるんだよ。
A　でも、過保護になるにはそれなりの理由がさあ。

救急車の音。近づいてくる。

A　あ、救急車。
C　まさか。

正面に窓がある設定で、Aが下をのぞく。救急車、すぐ近くで止まる。

A　ちょっと、止まったよ！
C　やだ！
E　ちょっと落ち着いて！

三人上手に駆け出していく。暗転。間。明るくなる。三人、気が抜けた顔で上手から登場。

A　ああ、びっくりした。
C　あんたのせいでしょ、変なタイミングで変なこと言うから。
E　まあ、びっくりしただけでよかったよ。
C　そりゃそうだけど。
A　しっかし、下のうどん屋のおばさんもいい加減にしてほしいね。
C　猫が餅のどに詰まらせたって、呼ぶか、救急車？
E　文句言えないだろ。ずいぶん長いこと面白そうに野次馬やってたのは誰だい。
　（**机の上を見て**）あれ？
A　何？
E　ん、いや。

上手から、幼稚園年長の男子、Dが駆け込んでくる。

D　ただいまっ！
C・A・E　（**無事を喜んでおおげさに**）お帰り！

予想外の大人の反応に、Dびっくりする。

C　もう！　心配かけて！（**Dを抱きしめる**）
D　何何？
E　さちおは心配かけてないだろ。
C　そりゃそうだけど…。幼稚園楽しかった？
D　楽しかった！
A　何して遊んだ？
D　仮面ライダー電王ごっこ！
A　子供の遊びって変わんないねえ。
C　（**抱きしめているDとの間に何かあるのに気づいて**）何持ってんの？
D　これ？　けんちゃんにもらった。
C　何？
D　いいもの。ホラッ！

D、手に持ったものを開けるとびっくり箱。Cがとても驚くので、Dは大喜びで走り回る。その騒ぎの中で、Eのパソコンをひっかけて床に落とす。みんな、凍り付く。

全　あっ！
A　ちょっと、大丈夫？
C　やだ、画面消えてる！

A　早く電源入れ直して。

奥さんは、大あわてでパソコンを拾い上げる。電源を入れるが点かない。

C　どう？
E　うわあっ、電源入らない！
A　ええええっ！
C　書類は？　ねえ、書類は？
A　バックアップ取ってあるよね。
E　ない！
A・C　えっ？
E　一気に今日やっちまうはずだったから、内蔵のハードにしか入ってない。
A　じゃあじゃあじゃあ。
C　朝からの仕事全部パア？
E　そういうこと。
C　ごめんなさい！　ほら、さちお、何ぼっとつったってるの！　奥さんに謝んなさい！
D　…ごめんなさい。
E　まあ、男の子は元気があった方がね。
A　子供にはやさしいねえ・・・。（**棚にある別のパソコンを持って**）こっちじゃだめ？
E　こっちから取り出せないんだから。

A　だめか。どうすんの？
E　どうするもこうするも。…ま、まず片付けようかね。
C　ああ、いいいい、いいいい、あたしやるから。
E　そうかい。じゃ、ダメだろうけど、あたしは電気屋行ってくるよ。
C　ほんと、ごめんなさいね。
E　子どものことはみんなお互い様だよ。じゃね。

パソコンを持って、上手に去るE。ちらかった周囲を片付けるC。CにじゃれつくD。

D　ねえねえ、お母さん。
C　何？
D　ねえ、お母さん、けだもの。
C　後後（あとあと）。
D　ねー、おかーさーん。けーだーもの、けーだーもの。
A　あんた、母親になんてこと言ってんの？
C　ああ、違うのよ。
D　お菓子じゃなくてけだもの。
A　…ああ。
C　ここ来て、チョコやらなにやらいっぱい食べるでしょう。こないだ、「もうお菓子だめ。くだものだけ。」って言ったのよ。

A　年長さんなら、「くだもの」くらい言えなきゃ。
D　おばあちゃんと合い言葉にしたもーん。
C　お母さんがふざけて言ったら気に入ったらしくて。
A　なーんか、みかんに毛が生えてたり、りんごに食いつかれたりしそうだね。
D　ねえ、おかーさーん。
C　今、鈴木さんが買い出しのついでに買ってきてくれるから。

しばらく片付けが続く。Bが上手から入ってくる。

B　どうも！
A　お帰り。
C　遅かったね。でもちょうど助かった。あれ、買い物は？
B　あ、えーと、ちょっと。
D　ねえ、大変なことがあったんだよ！
C　そうそう。
B　**（くすくす笑う）**
C　ちょっと、笑いごとじゃないんだよ。
A　大変なんだから。
B　あの。
C　ん？

B　データでしょ。（**くすくす**）
A　え？
B　税金の書類。（**くすくす**）
D　なんで知ってんの？
C　奥さんに会った？
B　いーえっ。
A　じゃ、何？
B　えへへへへ。
C　何よ。
B　（**時計を見て**）あ、じゃ、ええっと買い物忘れたのがあるんで。
A　ちょっと、何なの？

Bは上手に去る。

C　ちょっと、何、あれ。
D　ずうっと笑ってたね。
A　手ぶらだったし。どういうこと？
C　さあ、何かありそうだねえ。

Bがコンビニの袋を下げて帰ってくる。

B　どうも、お待たせしました。
D　はやっ！
B　は？
A　もう買い物行ってきたの？
B　え？　まあ、うん。
C　コンビニまで五分はかかるでしょ。
A　階段のとこに忘れてあったとか？
B　え？　いや、どっちかっていうと、のんびりしてきちゃったかなって思ってるんだけど・・・。
D　おばちゃん、めちゃくちゃ足速い！
B　おねえさん！　何回言ったら分かる？　一体、どうしたの？
C　こっちが聞きたいよ。さっきのは何？
B　さっき？
A　税金の書類のデータが飛んだって言った時。
B　データ？　え。ちょっと待って、税金って？
C　奥さんが朝からずうっと打ってたやつ。
D　そうだよ。僕が壊した。
C　何いばってんの！
B　え？　えええええっ？　大変じゃないの！
A　だから言ったじゃん。

B　バックアップは？
C　なし。
B　うわあ、丸一日分の仕事がパア！　うわあっ。
A　ちょっとちょっと。
C　反応の仕方めちゃくちゃだよ。
D　さっき驚きなよ。
B　だから何なの、さっきって。奥さんは？
A　電気屋走ってった。
B　ええ！　どうしよどうしよ。もう、甘い物でも食べて落ち付こ。
D　やったー！
C　どうしてそういう結論になんの！
B　あのね。これ、新発売だって。

Bはコンビニの袋からスイーツを出して配る。

D　やったやったーっ。
A　くだものののはずだったのにね。
C　まったくもう。ちょっと、それ高くない？
B　いいじゃん、たまには。
A　あんた、たまじゃないでしょ。

B　この癒しがあってこそ、失敗しても明日から頑張ろうって思えるんじゃない。
D　がんばろう！
C　あんたはちゃんと落ち込みなさい。
A　そうそう。あ、これ変わった味。
B　まずい？
C　いやいや。
D　おいしいおいしい！
B　なんかね、新しい甘味料使ってるらしいよ。
A　へえ。あ、失敗っていえばさあ。
D　えー、もういいよ。
A　さちおくんじゃなくて、もっと前の。
C　ああ、さっきの話。
B　何？
C　北川さんとこ。
B　げっ、そっちか！
A　で、どうなったの？
C　プライバシーにうるさいうちだって言ったのに、旦那の引き出しなんかのぞくから。
A　何が出てきたの？
B　・・・口紅。
A　は？

B　あとマスカラ。
A　愛人へのプレゼント！
B　自分用。
A　うわ。
C　かつらも下着もつけ爪もだって。きっついでしょ？
A　でも、どうして自分用だって分かるの？
B　写真もあったから。**（写真を取り出す）**
A　**（取り上げて）**持って来んなよ！　うわあ、ほんとにいるんだ、こういう趣味。
D　ねえ、このおじさん、なんでこんな格好**（グラビア風）**してんの？
C　見るんじゃないの！
A　もういい加減にしなよ。遊びじゃないんだし。
C　まったく。大喜びで見てるとこを、北川さんの奥さんに見つかったんだから。
A　あんた、ほんとダメだよ。信用第一なんだから。
B　はーい。以後気をつけます。

入口のチャイム。

A　はーい。奥さん戻ってきたかな。
B　来た来た。たぶんあたし。
D　何？

B　いいもの。

B、上手に出て行く。

D　ねえ、何何？
C　何だろうねえ。
A　どうせ、またあれじゃないの？

B、戻ってくる。大きな荷物を持っている。

A　何？
B　通販。
A　やっぱり。
C　やめなって言ってるでしょ、職場を受け取り先にするの。仕事中なんだから。
B　だって。
A　公私混同。
B　ぶー。
D　開けていい？**（既に開けている）**
C　これ！

D、あわててテープを戻そうとするが、なかなか元に戻らない。

A　いいじゃん、何買ったの？
B　結局見たいんじゃん。
C　そりゃね。
B　（**Dに**）開けていいよ。
D　ほんと？　やったー！

皆が興味津々で見守る中、Dがびりびりに包みを破る。

C　ちょっと、もう少し丁寧に。
B　いいって、いいって。

包みの中から、子どもがぴょんぴょん跳ぶ玩具、ホッパーが出てくる。

D　やったーっ。これ欲しかったんだ。
B　だめだめ、おもちゃじゃないんだから。
A　おもちゃじゃん！
B　違うって。これ、「タイムホッパー」！
C　まーた、変な美容器具買ってー。

A　あの馬に乗ってぐらぐらするやつもすぐに飽きて。
B　だって、あれ吐いちゃったんだもん。
C　そんなに激しいの？
B　酒飲んでやったら。
A　あほ！
C　とにかくもう無駄遣いやめたら。
D　ねえ、ちょうだいちょうだい。
B　だーめ！　勘違いしないで。これは美容器具ではありません！
A　じゃ何？
B　だから、「タイムホッパー」。
D　タイムマシーンみたい。
B　ピンポン！
C　はあ？
B　だから、タイムマシンです。
A　あんた、何言ってんの？
D　すごーい。タイムマシンが売ってたんだ。
C　あるわけないでしょ！
B　現にあるじゃない。
A　うそに決まってるでしょ。
B　本物だって。タカタ社長が言ってたんだよ。（**タカタ社長の真似**）さあ！　本日のご紹介は、こちら。皆

さん、なんだと思われますか？　なんとタイムホッパー！　ついにタイムマシンが一家に一台の時代になったんですねえ。

C　それが根拠か！

A　いくらだったの？

B　イチキュッパ。

C　千九百八十円？

B　まさか、タイムマシンだよ。

D　百九十八万円！

C　わけないだろ。

B　ピンポン！

C　ええええええっ。

A　ばかあっ！

B　二十回払い。でも、タイムマシンだよ。安いと思わない？

C　はあ。もう、口もききたくない！

A　こいつに給料払うの嫌になった。

B　もうどうして信じないかなあ。…さちおくん、一緒に説明書読も。

D　うん。

B　ええっとねえ。この目盛りを合わせると、その時にいけるんだよ。

D　すごーい。

B　着いた時によって、滞在できる時間が変わります。滞在時間は到着時に表示されます。

A　どういうこと？

B　よくわかんない。ねえねえ、いつにいったらいいと思う。

C　勝手にして。

B　ノリわるーい。

A　はあ…。江戸時代とか？

C　平安時代とか。

D　恐竜時代！

B　ええっ、やだよ。怖いもん。

C　まあ、旅行の最初は近場ってのが普通だよね。

B　近場かあ。

A　まあ、好きにして。

B　投げやり。

C　どうせだまされたんだから。

B　えー、タカタ社長信じないの？　日本人失格。

A　いつ決まったよ、そんなこと。

B　ねえ、どうしようどうしよう。

C　もう、時間がかかる人だねえ。さっきの買い出しもそうだったし。

B　そんなこと言わないで・・・あっ。

A　何？

B　決めた。

B、ホッパーに乗ってそこらを飛び回る。何も変わらないので、皆、指さして笑う。
しかし、上手に向かって、勢いよく跳ね始めると機械音が始まり、照明が点滅する。上手袖ぎりぎりでジャンプした瞬間、BGMと共に照明が一気に消える。ゆっくり点くと、三人が呆然として上手を見ている。

A　ちょっと、何あれ！
D　おばちゃん、消えちゃった。
C　あそこの最後のぴょんで。
A　どっ、どっ、どうしよ。
C　一体、どこへ消えたんだろ。
A　え、どこ行くって言ってた？
C　近場なんだよね。何か言ってた気がするけど。
D　買い出しに時間がかかったって。
C　買い出し・・・。あっ。
A　何？
C　鈴木さん、買い出しに行ってて、しばらくここにいなかったから。
A　だから？
C　その隙に紛れこんで・・・ああっ！
D　何？
C　さっきの鈴木さんのくすくす。

A　あああっ。
C　さっきあたしたちが会ったの。
A　鈴木さんが一回来て、またすぐ行っちゃったのは。
C　あれ、今行った鈴木さんなんだ！
A　だからパソコンのこと知ってたんだ。
C　えっ、てことは、ほんとのほんとにタイムマシン？
D　ねえ、どういうこと。
C　だから、鈴木さんのあれ、本物なんだよ。

上手から、Bがぴょんぴょん跳ねながら帰ってくる。

B　たっだいまーっ。
A　来たっ。緊張感ねえっ！
C　とてもタイムスリップしてきたとは思えない。
B　ただいま。
A　お帰り。
D　ねえねえ、おもしろかった？
B　おもしろかったよー。（**Aに**）だって、何があったと思う？
A　え…そりゃあ、ねえ…。
C　全部分かってるって。

B　え？　なんで？
A　いや、だから、その。
C　いい？　あんた誰に会ってきた？
B　だから、えっと、ああ！　さっき会いましたね。お久しぶりい。
A　何、言ってんの。でも、でも、ホントにタイムマシンなんだねー。
B　言ったじゃない。タカタ社長は嘘つかない。
C　日本の技術もここまで来たか。
A　（**上手を見て**）あっ。

Fがカバンをもって、学校帰りの様子で入ってくる。

F　こんにちはあ。
A　どのツラさげてここに来た！
F　いや、ほんと悪い。
A　悪いで済むか！　こっちゃ忙しい中、相手してもらったのに、あんなひどいこと・・・。
B　え、何やらかしたの？　あ、さっき隠れたの、それ？
F　は？
B　いや、だから、机の陰にさあ。
A　何言ってんの？　女子高生だよ、もうとんでもないの連れてきたんだから。
C　だから、さとしくんが悪いんじゃないし。

A　でも。
C　そのへんにしとこ。
B　まあ、一つ甘いものでも。
F　あ、ありがとうございます。
A　だめ！　食べる資格なし！
F　ええっ。

Aが取り上げた菓子を、Bが大あわてで奪い返し、Fの口に無理矢理ねじこんで食べさせる。

C　あ、ねえ、さとしくん、理系だったよね。
F　はい、一応。
B　これ、見て見て。
F　はい？
A　タイムマシン。
F　はあ？
A　だから、これで時間が超えられるのよ。
F　姉貴、頭悪過ぎ。
A　何！
C　まあまあ、あのね。ほんとなのよ。
B　あたしが行ってきた。

D　ぴょんって消えるんだよ。
F　いい加減にしてよ、みんなして。え？　仕返しでだまそうって？
B　ほんとだって。あたしが、十分前に行ったんだよ。
A　それに、十分前のあたしたちが会った。
F　またあ。
D　ほんとだよ。くすくす笑ってたんだから。
F　いいですか？　理系から言わせてもらうと、それ絶対におかしいんですよ。
A　おかしくたって、本物なの！
F　姉貴は黙って。いい？　鈴木さんが過去へ行って、十分前の姉貴たちに会ったとしたらですよ。
B　したらじゃなくて、会ったの！
F　過去を変えちゃったことになりますよね。姉貴たちは会うはずのない人に会ったんですから。
　それって、大変なことですよ。世界が終わっちゃうかもしれないくらい。
A　げっ、そうなの？
F　歴史を変えたってことになるわけだから。
C　あんたは、くすくす笑ってふざけながら、世界を滅ぼしたのか！
B　ごめんなさい！
A　北川さん怒らせただけでも重罪なのに。
D　おばちゃん、悪者（わるもの）？　イマジン？
C　ああ、たしかにイマジンだ。
A　何？

F　電王だよ。
D・F　おまえの望みを言え。おまえの望みを叶えてやろう。払う代償はたった一つ・・・。
D　仮面ライダー電王の悪者（わるもの）。
A　幼稚園児とシンクロすんじゃないよっ。情けないったらありゃしない。
C　でもね、イマジンは未来から来て、契約者の思い通りに時間の流れを変えるっていう悪者なのよ。
A　あー、なるほど！
A・C・D・F　（**Bを指さして**）イマジン！
B　悪気はなかったから。
C　世界を滅ぼしといて、そんな言いぐさないだろ！
A　世界中回って、謝ってきなさい！
B　ごめんなさいごめんなさい、こんなことになるなんて。え？　あ、でも、滅びてないじゃない。
A　…ほんとだ。
F　だから、世界が終わってないってことは、なんかの思い違いだったってことですよ。
D　思い違いって？
F　みんなで夢を見たとか。
D　えーっ、ぼく寝てないよ。
C　たしかにタイムスリップしたんだって。
A　うそだと思うならさあ…。あ。

パソコンを持って、とぼとぼEが帰ってくる。

B　お帰りなさい。
E　ただいま。
A　どうだった？
E　はー。
C　だめだったみたいね。
F　何なの？
E　ああ、さとしくん。
F　さっきはすみませんでした。
E　ま、そんなことすっとんじゃったよ。
A　さっき事故があってね、丸一日かかって作った税金の書類がパー。
F　ええっ。
E　たぶん直せるらしいけど。
A　なんだ、よかったじゃん。
E　二週間、工場に送れば。
B　書類の締め切りは？
E　あした。

A・B・C、ため息。

C　ごめんなさい。ほんっとにごめんなさい。
E　まあ、いいよ。そうなんべんも。
B　あ、こんな時にはひとまず甘いもの。どうぞ。
E　ああ、ありがと。あ、これ変わった味。
A　新発売だって。
E　ふーん。
B　あっ！
A　どうした？
B　**（ホッパーを示して）**これ！
C　あっ。
A　え？
E　何だい？
B　奥さん、これねえ。
D　タイムホッパーだよ。
E　は？
B　だから、これで時間が移動できるの。通販で買った。
E　ばか、また無駄遣い。あんたの給料計算してると思うと情けないよ。
D　百九十八万円だよ。
E　何？**（Bを見る）**
B　**（うなづく）**

E　このっ。**（いきなりBの首を絞める）**
A　奥さん、奥さん！
E　いつもいつもろくでもない買い物して！
C　お願い、人殺しだけは！
E　経理やってるこっちの身にもなりな！
D　本物なんだよっ。
E　ああ、本物の馬鹿だよ！　…えっ？

E、首を絞めたまま、周りを見回す。順番に皆うなづく。Fだけ慌てて否定する。

E　そうなのかい？　どういうこと？
B　お願いだから、放してからにして。
E　ああ、ごめんごめん。
A　奥さんが出かけた後に、鈴木さんが来たのよ。
C　でも、それは、さっきこれに乗って過去へ行った鈴木さんだったの。
E　へえっ！
B　だから、これに乗って、過去へ行ったら。
C　壊れる前のデータが手に入るってわけ。
A　ああ、そうか！
C　今頃分かったのか？

E　ありがたい！　あんた、いい買い物したねえっ。
F　ちょっと待って！

皆、一斉にFを見る。

F　どうも雰囲気からいって、それ、ほんとにタイムマシン。
A　おそっ。
C　あんたがいうか。今頃納得した？
F　だとしたら、ちょっと言いたいんだけど。
B　何？
F　鈴木さんは、さっき過去に戻った時に何をしました？
B　だから、この部屋に来たのよ。
F　で、鈴木さんに会ったのは。
A　あたしと。
C　あたしと。
D　僕！
F　みんなとしゃべったのに、なんともなかったと。
B　何が言いたいわけ？
F　タイムパラドクスって知ってます？

Ｆにスポット。ミステリーの謎解き的ＢＧＭ。周りもなんとなく見える。Ｆは、ホワイトボードを使って説明をする。

Ｆ　いいですか。（**矢印を引く**）これが時間の流れとしますね。（**真ん中に〇を書く**）で、このＡポイント、ここが現在。普通にいけば、みんなは鈴木さんにここ（**右側に〇を書く**）、Ｂポイントとすると、この時点で会ったという記憶もないし、奥さんの書類も壊れたままです。だから、ここでもみんなが困ったままですね。本来、このことは時間の不可逆性といって、完全に固定されたまま、決して動くはずのないわけです。ところが、ここでタイムホッパーを使うとどうなるか。現在のＡポイント、ここで今はみんな持っていない、あるはずのない記憶ができる。つまり、頭の中にいきなり「ああ、あの時鈴木さんにあったな」という覚えが出来てしまう、さらに、あるはずのない書類が手にはいる。

話の途中から、みんな飽きてきて、私語を始める。

Ａ　そういえば、美容院の向かいにケーキ屋できたよね。
Ｃ　ああ、もう行った？
Ｂ　行った行った！
Ａ　やっぱり。
Ｄ　あー、食べたい食べたい。
Ｃ　だめ、甘いものばっかり。
Ｄ　ちぇーっ。（**席を立って、Ｆの前に座り込み、それにも飽きて外へ出て行く。**）
Ｃ　で、どうなの？

Ｂ　なんかいまいち。
Ｅ　え、あたしはまあまあだと思ったけどねえ。
Ａ　奥さん、もう行ったの？
Ｅ　ついでがあったもんでね。
Ｂ　何買いました？
Ｅ　あのー、ほれ。なんか気取った名前のがあったじゃないか。
Ｂ　ああ、ミルク・アン・シエル。見た目が派手なミルフィーユ。
Ａ　ネーミングセンスわるっ。
Ｂ　サブタイトルが。
Ｃ　サブタイトル？
Ｂ　ビジュアルケーキと呼ばないで。
Ｆ　（**あきれかえって怒鳴る**）いい加減にして！　ちょっと、聞いてますか？

ＡＢＣＥ、しらける。

Ｃ　…さとしくん、はっきり言うけどさあ。
Ｆ　はい？
Ｃ　傷つくなよ、ガラスの十代。
Ｆ　何ですか？

C　あんた、もてないだろ。
F　（**胸を押さえて**）うっ。（**同時にパリーンという音**）
A　要するに何よ。
B　ぐちゃぐちゃ難しいこと言っても無理。
E　女はねえ。科学が要らない生き物なんだよ。
F　え、だって、『あるある大辞典』とかであんなに右往左往するじゃないですか
A　何いってんの。途中の理屈がどうのこうの言ってるとこなんか、誰も覚えちゃいないって。
B　そうそう、女にとって大事なのはね、「納豆、イコールやせる」、この結論だけなの。
C　間（あいだ）のごちゃごちゃした過程なんかそれらしーくだましてくれたらそれでいいの。難しいのだめ。
F　でも、こないだ友達が難しいこと説明してるのを、女の子が真剣に聞いてましたよ。
C　さとしくん、ずばり言うけどさあ。
F　はい？
C　いいかい、足をしっかり踏ん張って聞きなよ。
F　？
C　そりゃ、その友達がかっこいいからさ。あんたと違って。

F、ショックの表情。上手からD駆け込んできて叫ぶ。

D　たおれるぞー！

F、大木のよう倒れる。同時に木が倒れる音。

B　ああ、このかっこいい男が、よく分かんないけど、自分のために一生懸命難しいこと言ってくれてる。
C　その雰囲気に酔ってるだけだね。確実に。
A　中身なんかどうでもいいの。
F　でも、タイムパラドクスは確実に起きるはずなんです。
E　とにかく、とりあえず、ちょっと行ってくるのは無事だったんだから大丈夫じゃないの。
F　その「ちょっと」って、どこまでが「ちょっと」か分からないじゃないですか。
B　いいじゃん。フィーリングよ、フィーリング。
F　そんないい加減な。
B　だって、さっきもあたし、これくらいなら大丈夫かなって思って、行く時間選んだんだから。
A　さすが女の勘！
F　ちょっと待って。鈴木さん、なんでその時間選んだんですか？
B　忘れた。
F　ちょっと！　大切なとこなんですから。
B　うーん、やっぱ、自分に会わないことかな。
A　あ、分かる。
C　さすがに気まずいよね。
F　自分に会わない。
A　もしさあ、十年後の自分がいきなり来たら、ショックだよね。

C　うわ、考えたくない。
B　肌とかこうなるんだって直接見ちゃうわけでしょ。化粧する気なくなるね。
A　ちょっとでも若返るんじゃないかって思って、化粧水とかつけてるのにね。
E　あり得ないって分かってててもねえ。
F　じゃ、過去からものを持ってくるのは気まずい？
B　うーん、気付かれるようなものはね。
F　そうか！
A　何？
F　それが「ちょっと」のラインなんだよ。直接会ったり、気付かれるものを持ってきたりして、過去の自分を驚かせるようなことがないかぎり、セーフなんじゃないかな。
A　ああ！
B　なんか納得。
C　じゃあ何、自分に会わずに、未来から来たってことがばれないようにして、データをコピーしてきたらOKってこと？
F　たぶん。
E　じゃあ、全部打ち直さなくてもいいってわけかい？　さとしくん、保証する？
F　知りませんよ、そんなの。
B　とにかく行ってみようよ。
A　いつにする？
C　うーん。

みんな考え込むが、A・C・E同時に気づく。

A・C・E　あれだ！
F　何何？
C　あれしかないね。
E　ベストだね。
A　ほらほら、あたしに感謝しなきゃ。
B　だから何？
C　あのね。救急車がすぐそこに止まったから、さちおに何かあったんじゃないかって、みんなで飛び出したのよ。
F　いつ？
C　三時ちょっと過ぎ。そろそろ帰ってくるかなって時計見たから確実。
B　すごーい。
A　かなりしばらく野次馬してたから、コピーしてくるくらいの余裕あるよね。
C　誰が行く？
D　はい！
C　だめ！　危ないからお留守番。
D　やーだっ！

D、寝ころんでじたばたし始める。以下、ずうっとやっている。

E　あたしは勘弁してほしいね。
A　そりゃそうだわな。
F　あの、ぼくも…。
A　何言ってんの、あんた男でしょ！
F　え、だって、これ本来僕に関係ないし。
A　あんた、理系選んだのはこの日のためだって。
F　言ってないよ！
A　あー、もー、ぐずぐず情けない。分かった。あんた一生もてない男決定！

激しくガラスの砕け散る音。F、崩れ落ちる。

C　はいはい。（**かけらを履き集める仕草をしてからFを立たせて**）そんなことないから。
　でも、本気でさとしくん行ってくれるとありがたいんだけどな。
F　はい。
A　よーし。
C　あたしも責任あるから行くわ。
B　あたしも持ち主だから。
A　じゃ、四人か。

F　ちょっと待って。これでしょ。四人って、どうやって。

皆、はっとしてホッパーを見つめる。

B　ええっとね。どうだっけ。
C　説明書は、これか。
B　んー、あ、大丈夫みたい。
F　うそお！
B　誰かが操作してるところに体をくっつけてる人は、一緒に行けるんだって。
C　なんかすごいおおざっぱな気がするけど。
F　くっついてるって言ったら、部屋中一緒に行っちゃうじゃん。
B　あ、だから、タイムスリップの瞬間は、空中に浮いてないと失敗するのよ。だから、くっついてる人みんなで「はっ！」
A　まじ？
B　よし、スイッチオン！

Bを中心に手をつなぎ、Bに合わせてみんなで並んでジャンプし始める。

F　ほんっとにこんなふうでみんな行けるの？
B　大丈夫じゃないの？

F　ちょっと、ちゃんと説明書見てよ。

ジャンプやめる。

B　えーっと、ただし、はじの方の人は効果が薄い場合があります。
F　効果が薄い？！
A　なんかこう、体の75パーセントくらいが過去へ行くとか。
F　やだーっ。
E　なんか、やめた方がよくないかい？
C　ううん、子供のやったことの責任は取りたいの。たった一人の親だから。
E　気持ちはありがたいけど。
A　ま、一人で行くんじゃないから、心強くていいか。
B　大丈夫だって。

ジャンプ再開。機械音がし始める。

A　ねえ。あれ、どうする？

まだ転げ回っているDに皆が注目して。

C　はー。…さちお、行くよ。
D　（**コロッと立ち直って**）やったー。

D、Cにしがみつく。

F　ちょっと待って。フロッピーか何か持ってかないと。
A　あ、そっか。やばいやばい。
E　これでいいかい？　（**机の引き出しからフロッピーを出して渡す**）
F　どうも。
B　あと、なんか忘れてる気がするんだけど…。
A　今さらいいよもう。
D　しゅっぱーつっ！

機械音が高まる。真ん中でBが少しずつジャンプを始め、最後の瞬間でみな一斉に高く跳ぶ。暗転。

ゆっくり明るくなる。五人、じっと身をかがめて様子を見ている。遠くで救急車の音がしている。

C　着いた？
A　（**時計を見て**）合ってる。
B　滞在時間5分だって。

A　5分以内に帰らなきゃいけないってこと？
B　そう。
A　なんで？
F　たぶん、近い過去に行って長くいすぎると、現在とかぶっちゃうからじゃない？
A　ああ、じゃ、遠い過去に行くほど長くいられるんだ。
F　たぶん。
C　さとしくん、お願い。
F　はい。

F、データのコピーを始める。Bはホッパーを机の向こうに立てかけてから、そわそわし始める。

B　ねえねえ、どきどきしない。
C　しすぎるくらいしてるよ！
A　やだなあ、苦手なんだよ、緊張すんの。
B　ねえ、外にみんないるんだよね。見に行かない？
A　馬鹿！　あんたは何でそうなの？
B　だって。
C　今回だけはお願い。我慢して。
B　はーい。
F　できた！

C　よし、すぐ戻ろ。
B　オッケー。ミッション完了。

B、「ミッションインポッシブル」のテーマを口ずさみながら、ホッパーに手を伸ばす。

A　どこまで緊張感ないんだよ。
B　あっ。

ホッパーが机の後ろに倒れてしまう。

C　何やってんの。
B　ごめんなさーい。
F　ちょっと、壊れてないでしょうね。

B、机の後ろにもぐってしばらく見えなくなる。それをFはしゃがんで見ている。

A　ちょっと早くしてよ。

Dがじっとしているのに耐えられなくなって、あちこちうろうろし始め、ついに、救急車を見に外へ出ようとする。追いかけるC。ようやく、Bのお尻が机の後ろから出てくる。

C　ちょっと、さちお！

Dが上手に引っ込みかけて、びっくりした表情で後ずさりしながら戻ってくる。続いて、上手からBが入ってくる。

D　おばちゃん！

一同凍り付く。Fは必死で机の陰に隠れる。

B　おねえさん。さちおくん、今日早いね。
D　おばちゃん、どうして段ボールの裏…。
C　（**あわててDの口を押さえて**）あの、えと、何？
B　あ、ちょっと忘れ物。

Bが机に近づいてくるので、AがBの尻を押し込んで、体で隠す。

B　あ、あったあった。（**机の上の紙を取り上げる**）　え？　何？
A　いや、何にも。
B　どうかした？　あれ、奥さんは？

C　ねえ、買い出しの途中じゃなかったっけ？
B　え？　質問無視？
A　トイレトイレ。早く行かないと怒られるよ。
B　そっか。やばいやばい。あれ？　さとしくん？
F　…いえ、違います。
B　何言ってんのよ。さとしくんでしょ。どうして隠れてんの？
C　あのー、あっ、さちおとかくれんぼ。
B　は？　ここで？
A　早くしないと奥さんに見つかるよ。
B　そっか。じゃね。戻ってきたこと秘密にしといて。
C　オッケ。じゃね。

B、上手に退場。一同、ほっとして力が抜ける。

C　ああ、びっくりした。
A　聞いてないよー。
D　ねえねえ、なんでおばちゃん、こっちから来たの？
F　だから、あれは鈴木さんだけど、この鈴木さんじゃないんだって。
A　でも、よくこのタイミングだったねー。
F　僕も見つかっちゃやばいんじゃなかったっけ？

C　そうだっけ？
F　僕が来たの、タイムホッパーで鈴木さんが行って帰ってきた後だから。
A　あ、そっか。ま、でも気づいてないし、鈴木さんだし。
B　何？　鈴木さんだしって。

B、尻から出てくる。

C　いい加減にしなよ、何で言わない？
B　いやー、なんかひっかかるなーって思ったんだけどね、出発前に。
F　なんかじゃないでしょ！
A　なんで戻ったの？
B　この買い物でクーポン三枚になるって、途中で気がついて。
C　クーポン？
A　何？
B　これ。
F　おお、電王のストラップ！
D　ああいいな。ちょうだいちょうだい！
F　だーめ、今回はこれくらいもらう権利があるもんね。
D　えー、ずるいー。
A　奪い合うな！　幼稚園児と！　（**Fから奪って、机の上にたたきつける**）もーほんっと情けない。

C　あんた、こんなもんのために、あたしらにこんな思いさせて。
B　えー、だって、それは。
A　言い訳無用！
B　はーい。…でもさ。
C　ん？
B　ちょっとあたし、分かったことあるのよ。
A　何？
B　ねえ、ちょっと二人とも窓から見てみてよ。
C　何を？
B　野次馬してる自分。
A　そんな暇ないんだったら！
B　でも、ちょっとだけでいいからさ、絶対二人とも分かるから。
C　んー、そんなに言うんなら。

三人、正面から下を見下ろす。窓の下の往来に、野次馬が集まっている。

A　あ、あれあたしだ！
C　ああ、じゃあ隣りがあたしか。
B　どう？
C　どうって、自分で自分を生で見てるってのは。

A　ちょっとした幽体離脱？
B　そうじゃなくて。
C　あ、

BGM

C　あれあたしなのに、何にも知らない？
B　そう！
A　そっかー。ほんの少し前の自分なのに。
C　さちおが大騒ぎ起こすことも、データが壊れることも。
B　もちろん、ここにこうやってくることなんて。
A　なんか、そう思うといじらしいね。
C　逆に、今のあたしって、かなりすごい？
B　うん、それ思ったんだ、あたしも。さっきの自分見てて。
A　そうだねー。うん。そうだ。
F　なんかしみじみしてるとこ悪いんですけど、急いだ方が。
A　あっ、そうか。
C　とにかく大急ぎで帰るよ。

横並びになって、五人でジャンプを始める。機械音が高まる。

D　しゅっぱーつ。
F　あっ。
C　何？
F　ストラップ！

Fがストラップを取ろうと、手を伸ばすと、代わりにフロッピーが落ちる。それを拾おうともたもたしているうちに、どんどん機械音は高まっていく。

D　さと兄、早く！
A　何やってんの！
F　あ…。

手を伸ばすF。しかし、つまづいて間に合わない。Fを残して、タイムスリップが完了してしまう。暗転。ゆっくり明るくなる。落ち込んでいる四人。

E　お帰り。どうだった？
A　…さとしが。
E　え？
D　さと兄、置いてきちゃった…。

E　ええっ！　なんで？
D　電王のせい。
A　あのばか、ストラップと心中しやがった！
C　タイムスリップの瞬間ね、ストラップ取ろうとして手を離したの。それっきり。
E　ちょっと、冗談じゃないよ。
A　もう最悪！　フロッピーも弟も過去に置き去り。
E　フロッピーなんかこの際いいよ。さとしくん、どうなるんだい？
C　どうなるんだろ…。
A　連れ戻しにいけない？
C　無理。空白の時間、ぎりぎりまで使っちゃったから。
A　ううう。

落ち込むみんな。ただし、Bだけなんとなく平気。間。いきなり、ロッカーの中でガン！と音がする。

皆　うわっ！
A　何？

皆が注目する中、ぎーっとロッカーの扉が開く。中にFが入っている。

A　さとし！

C　さとしくん！
F　どうも。お久しぶりです。

駆け寄る皆。Fを取り囲む。

A　さとし、えっと、あんたいつのさとし？
F　置き去りにされたさとし。
C　ええっ、どうやって帰ってきた？
D　すごーい。タイムマシンロッカーだ！
A　え、（**Bに**）あんた、こんなのまで買ったの？
B　まさか。
F　いや、これはただのロッカー。
C　ただのロッカーに入ってたの？　なんで？　いつから？
F　置き去りにされてからずっと。
C　ああ！　まさかさとしくん、さっきからずうっと。
F　そうです。ずっとここに入ってました。
A　ってことは？
B　救急車観に行って帰ってきた時から、ずっとさとしくんがここに入ってたってことね。
F　はい。自分に会っちゃいけないって思って必死でした。
A　なにそれ！

E　大変だったねえ！　辛かったろう。
C　狭いし。
B　暗いし。
F　いや、どっちかっていうと…。
A　何？
F　自分が「もてない」とか言われてるのを見てる方がきつかった。
A　もう、ばか！　救いがたくばか！
E　ほんとに心配したよ。
F　すみません。じゃ、これ。

F、Eにフロッピーを渡す。Dにはストラップ。

F　はい。
E　ああっ、ありがと。助かった！
F　これはさちおくんに。
D　うわあ、いいの？
F　もう見たくない。

E、フロッピーの中身を確かめる。

E　うん！　ありがと。ちゃんと入ってるわ。うそみたいだ。
B　これにて一件落着！
A　でもさ、どうもひっかかるんだけど。
C　何？
A　（**Fに**）あんたさ、かれこれ三十分以上、ずっとそこに入ってたわけでしょ。
F　うん。
A　ってことは、ほんとはあたしたちと一緒にここに来るはずだったのに、この三十分くらい、あたしたちより余分にここにいることになるよね。なんか、人生増えてない？
F　いや、寿命は延びないだろ。でも、たしかに三十分本当の人生より早く生きちゃったことになるかな。
B　ってことは、三十分早く年取ったのが、今のさとしくん。
D　なんか気持ち悪い。
F　何言ってんの？　みんなだってそうじゃん。時間の差はあるけど、あそこに行った間の時間は、本当の現在よりみんな年取ってることになるよ。
A　…うわっ。
C　余分に年取った？
A・C　…ま、それもいっか。
E　おや、今までにない反応だね。
A　えへへへ。
C　なんかあたし、分かったの。
E　何が？

C　たった十分、二十分でもさあ、あたしたちって、前に見えなかったことが見えるようになるんだよね。
A　生きてれば生きてるほど、見えてくる地平線って広がるんだね。
C　年取るのも悪くないかなって。
A　鈴木さんが過去のあたしたち見せてくれて、そう思ったの。
E　なんかいきなり成長したみたいで気持ち悪いね。
D　えっ、おかあさん成長したの。
E　そ。しわやたるみと引き替えにね。
A　もう、すぐそういう言い方する。
C　でも、その通りだよね。年取るってすごいわ。おばちゃん、改めて尊敬します。
A　あたしも。
E　今更何だね。
B　あたしも尊敬します。（**Cに**）おばあちゃん。
C　何？
B　あたしのおばあちゃん。
A　は？　また訳分かんないこと言い出した。
C　どういうこと？
B　黙っててごめんなさい。あたし、本当は水橋はるかと言います。
A　水橋？　なっちゃんの親戚？
C　まさか。
A　なんかよく分かんないんだけど。

B　これね。ジャパネットたかたじゃ売ってないんです。まだ今は。
C　何？
B　通販じゃなくて、宅配で頼んでここへ届けてもらったんです。
A　なんでそんなこと？
B　あたし、…未来から来ました。
A　はあ？
C　何？
B　あたしの現在は、今から四十年後。二〇四七年です。
A　ちょっと、あんた大丈夫？
F　でも、たしかにタイムマシンなんか、今あるはずないよね。
B　でしょ。
E　…ああ、そういうことかい。
A　おばちゃん、いきなり何納得してんの？
E　似てると思ってたよ、なんとなく。
C　どういうこと？
E　あんたの孫だよ。
C　えっ。
E　四十年経つと、さちおの子が、こんなに大きくなるんだよ。
D　ぼく？
C　さちお…の…子？

B　初めまして、おとうさん。
D　ええっ！
B　…って、ちょっと変か。おばあちゃん、十八年後に生まれる孫です。
C　そっかー。なるほど。
A　ちょっと、なっちゃんもそんな簡単に納得して。
C　なんか感じてるものはあったの。それがすごくすとんって。うん。
F　生まれてなくても、血のつながりって感じるんだ。
B　でね、伝えておきたいことあるんです。この紹介所、すごいんですよ、四十年したら。
A　どうなんの？
B　つらい思いをしてる女性をどんどん受け入れて、働ける腕をつけさせて、すごく大勢の人を自立させてるんです。ちょっとした救世主みたいになるの。あんまり儲かってないらしいけど。
E　**（苦笑い）**儲からないのか。
B　あたし、憧れのおばあちゃんの若い頃を見たくて、ここまで来たんです。滞在時間は一ヶ月。そろそろ時間切れです。
C　あたしに会いに…。
B　で、お節介だけど、おばあちゃんたちがなんか、未来なんかないとか、しょっちゅう言ってるから、心配になっちゃって。
A　お節介って？
B　これ。**（ホッパーを示す）**
C　ああ、それで無理してタイムトラベルさせてくれたんだ。

B　はい。お騒がせしました。
A　ううん。そっか。そういうことか。
B　でも、逆にちょっと安心しちゃった。皆さん本当に素敵なんです、四十年後。そんな人たちでも、こんなに自信がなかったんだって、こんなにめちゃくちゃだったんだって。
C　めちゃくちゃ…。
B　あ、ごめんなさい。あたしの方がもっと悲惨なんだけど。
A　悲惨って？
B　あたし、就職に失敗したんです。人間関係うまくいかなくて、すぐにやめて。
A　うわ、同じだ。
B　で、焦って結婚してそれにも失敗して…。
E　そうだったのかい。子供は？
B　いません。ひとりぼっちで落ち込んでます。で、おばあちゃんがあたしくらいの頃、どうだったんだろって、見たくなって。
C　そうか。…つらかったねえ。

Bの頭をCがなでる。

D　おばちゃん、大丈夫？
B　うん。おばあちゃん、小さい時からずっとあたしの頭、こうやってなでてくれた。
C　そっか。こうやって孫の頭をなでるんだ、あたし。

A いいなあ、なんか。
E あたしもそろそろかねえ。
B でもほんとに安心しちゃった。おばあちゃんも最初からうまくいってるわけじゃないんだって分かって。
C 高校中退して子供産んで育ててるシングルマザーのどこがうまくいってるって？
B いっつもおばあちゃん、それ言う。でも、ほんとのところは今回やっと分かった。おばあちゃんだけじゃない、みなさん、みんな年を取るほど素敵になっていきますよ。
A あたしも？
B はい。
A そっかー。
B だから、あたしもきっと。
E そうだよ。絶対そうだよ。
B …はい。 じゃあ、あたし、そろそろ行きます。
C え、行っちゃうの？
B あたしに許された時間がそろそろ終わりになるから。
F ちょっと待って。ってことは、明らかにこれ、過去を変えてるよね。過去の人にまで時間さかのぼらせて。まずいんじゃないの。
B 「歴史は記憶の最大公約数。」
A 何？
B あたしたちの時代では、子供まで知ってる法則です。結局時間って、記憶なんです。
A 記憶？

B うん、歴史っていうのは、一人一人が記憶していることのだいたいの共通部分のことを言うの。時間ってどうやらシールドがかかってるらしくて、好き勝手やろうとするとタイムマシンが作動しなかったり、いきなり現在に戻されちゃったり。それに、たとえタイムスリップして過去を変えても、「あり得ない」ってみんなが思うようなことは、記憶に残らないで消えちゃうの。
C なんで？ 孫が訪ねてきてくれたんだよ。忘れないよ。
B ううん。
A 残るよ、絶対記憶に。忘れるわけないじゃん。
B 時間が修復して、放っておいてもたぶん忘れるんだけど、過去の人と関わる時にはだめ押しすることが義務付けられてるの。
A だめ押し？
B タイムホッパーのほかに、実はまだ発売されてないものがもう一つ。
A どういうこと？
F 何かあったっけ？
B 全員食べてもらえるかどうかヒヤヒヤしたけど。
D あっ、お菓子だ！
A ちょっと、勘弁してよ！
C 変わった味だと思ったけど。
B ごめんね。絶対に害はないから。でも、あれであたしに関する記憶は完全に消えるの。

間

C　じゃあ、ほんとに行っちゃうんだね。あたしの頭の中からも。
D　せっかく会えたのに。
A　忘れちゃうなんて。
B　でも、必ず会えるから。
C　そうだねえ。あんたは必ず生まれてくるんだし。今は忘れても、会社が軌道に乗って、あたしたちがなんのためにこうやってじたばたしてんのか、いつか分かる日が来るんだねえ。
E　そう、それまでは生きていかなきゃ。
A　生きてかなきゃねえ。
B　じゃ、時間です。
D　ええっ、もう。
C　ちょっと待って。

あわてて皆が駆け寄ろうとした形のまま、Bを残してストップモーション。何かが迫るBGM。

B　ありがとう、おばあちゃん、おとうさん、みなさん。あたし、負けないから。あたしはあたしの世界できっと頑張るから。未来で会お！

BGM高まって、暗転。やがて、ゆっくり明るくなる。Bだけがいない。ストップモーションが解ける。

E　**（手の中のフロッピーを見て）**あ、さとしくん、ありがとね。
A　さすが理系、いや、オタクかな。
F　ひどいなあ。苦労してデータ取り出してそれ？
C　ほんとよかった。**（Dに）**もう、気をつけなきゃ。
D　ごめんなさい。
E　まあいいよ。とにかく続きやんなきゃ。あんたらも休憩終わり。
A・C　はーい。
D　…お母さん。
C　ん？
D　なんか大事なこと忘れてる気がする。
C　そういえば。
E　その年で物忘れかい？　情けない。
A　いや、でもなんか。
F　うん、僕も。
E　そういう時はね、無理に思い出そうとしなくてもいいのさ。
C　そうだね。
A　そう？
C　その時がくれば、本当に大事なことなら思い出せるんじゃないかな。
D　それはいつ？
C　さあ、それが分かったらいいんだけど。

E　それが分かったらねえ。

携帯が鳴る。Cが出る。BGM。以下のせりふをそれぞれが口々に言いながら、慌ただしくそれぞれの仕事にかかっている様子を見せながら、緞帳が下りてくる。

C　はい、木野村家政婦紹介所です。あ、いつもお世話になっております。（**このへんからE話し始める**）はい。ありがとうございます。ええと、その日はですねえ、ちょっとお待ち下さい、あ、大丈夫です。はい、では8時に。はい、伺います。なるほど、じゃ、お母様が10時にデイケアに行かれて、はい、その間にお掃除を。はい、そのくらいあれば十分間に合います。

E　いいかい、さちお。もういい子にしてるんだよ。

D　はーい。

E　さて、あと一踏ん張りか。

A　さちおくん、こっちでお勉強しよっか。

F　え、宿題でもあるの？　年長さんで。

A　なんかね、小学校入る前に、ひらがな全部読めて書けるようにしなきゃなんないんだって。

F　えー、そんなふうだったかな。

D　ほら、見てみて。僕、名前書けるよ。

F　おーすごいすごい。

A　学校五日制って、結局親がやれってことなのかな。

D　ねえねえ、これで合ってる？

A　なんべん言っても、「お」を反対に書くねえ。

F　ああ、僕もよくやったなあ。子供ってなんで反対になっちゃうのかな。

幕